

第8回

フレンドシップコンサート

バッハの管弦楽作品

市川交響楽団メンバーによる室内楽

2022年3月12日(土) 開演 14:00 開場 13:30

山崎製パン総合クリエイションセンター内
飯島藤十郎社主記念LLCホール

主催:市川交響楽団協会
協賛:山崎製パン総合クリエイションセンター
協力:山崎製パン株式会社

J.S. バッハ : ブランデンブルク協奏曲 第5番 BWV1050

- I : Allegro
- II : Affettuoso
- III : Allegro

J.S. バッハ : ブランデンブルク協奏曲 第1番 BWV1046

- I : [no tempo indication]
- II : Adagio
- III : Allegro
- IV : Menuet

—休憩—

J.S. バッハ : 管弦楽組曲 第3番 BWV1068

- I : Overture
- II : Air
- III : Gavotte I / II
- IV : Bourrée
- V : Gigue

Message ごあいさつ

本日は市川交響楽団協会主催の「第8回フレンドシップコンサート」にご来場いただき、ありがとうございます。

今回もここ「山崎製パン総合クリエイションセンター」内に併設された「飯島藤十郎社主記念LLCホール」を会場としてご提供いただき演奏会が開催できます事、山崎製パン株式会社様をはじめ多くのご協力をいただいた関係者の皆様に市川交響楽団協会を代表して深く御礼申し上げます。

本ホールの名称「LLC」とは「Life(生命)、Light(光)、Creation(創造)」を表しているとのお話を伺っております。早春のフレンドシップコンサートをごゆっくりお楽しみください。

市川交響楽団協会 理事長 時田 雄

指揮 三原明人(みはらあきひと)



東京生まれ。幼少よりヴァイオリン、ピアノ、作曲を始め、東京芸術大学音楽学部器楽科でヴィオラを、桐朋学園大学及びウィーン国立音楽大学で指揮法を学ぶ。

芸大在学中に作曲された「ヴィオラとオーケストラのためのプレリュード」(1983)は作曲者の独奏により初演され、同年のN響機関紙「フィルハーモニー」誌上にて紹介された。ヴィオラの室内楽奏者としてピアニストのピーター・ゼルキンやチェリストのフレッド・シェリーと共演、ニューヨーク・カーネギーホール主催の現代日本作品演奏会に出演。サイトウ・キネン・オーケストラのヨーロッパ・ツアーにも参加した。

1989年オランダで行われたキリル・コンドラシン国際指揮者コンクールで第2位入賞し、オランダ放送フィルを指揮してアムステルダムにてデビュー。1996年ポルトガルで行われたリスボン国際指揮者コンクールで第3位入賞(1位なし)。ウィーンフィルのコンサートでレナード・バーンスタインのアシスタント、ベルリンフィル来日公演でクラウディオ・アバドのアシスタントを務めるなど研鑽を積みながらヨーロッパと日本を中心に各地で活躍、数多くのオーケストラを指揮している。

現在は東京音楽大学にて後進の育成にも努めており、またアマチュア音楽家との交流も数多い。自ら室内アンサンブルを主催するなど大変ユニークな活動を展開している。東京音楽大学指揮科及び同大学院講師。

市川交響楽団

2021年に創立70周年を迎えたアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。

メンバーは現在100余名で年齢構成は20代から80代までの幅広い層にわたり、職業も会社員、教員、主婦など多彩。地元市川市での演奏会を中心に全国各地の文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。著名な音楽家との共演も数多く経験している。特に地元ゆかりの音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献をしている。市川交響楽団は市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体とで構成する市川交響楽団協会の中核として“クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらおう”をモットーに、常に積極的な活動を展開している。

ヨハン・セバスティアン・バッハ

バッハは、1685年にドイツ、アイゼナハで有名な音楽一族に生まれ、ケーテンやライプツィヒなどドイツの都市を拠点に宮廷礼拝堂のオルガニストや宮廷楽団のチェンバロ奏者として音楽活動を行いました。1717～1723年には、ケーテン侯レオポルトの招聘により、16人の優れた器楽奏者が在籍するケーテン宮廷楽長として大変活躍しました。本日演奏するブランデンブルク協奏曲はこの時代に作曲されたものと考えられています。

バッハはそれぞれの赴任地の職務に関連した創作を積極的に行いました。ライプツィヒ時代には、教会の礼拝用音楽である教会カンタータを300曲近く作曲し、「マタイ受難曲」、「ロ短調ミサ曲」、「フーガの技法」などの大作は 今日でも演奏されています。



J.S. バッハ : ブランデンブルク協奏曲 第5番 BWV1050

北ドイツのブランデンブルク=シュヴェート辺境伯に捧げられたことにより、この名で呼ばれています。

自筆譜にフランス語で書かれた献呈文には、「いくつかの楽器による、6曲の協奏曲」と書かれています。とくに作曲順に番号が付けられたわけではなく、ブランデンブルク第5番は一番最後に作曲されたものでした。

第5番は第1楽章から第3楽章までで成り立っており、フルート・ヴァイオリン・チェンバロが独奏楽器として使われていますが、チェンバロの美しさが特に印象に残ります。

第1楽章 アレグロ(速く)

独奏はフルートとヴァイオリンの掛け合いから華やかに絡み合っていきます。終盤は見事なチェンバロの独奏(カデンツァ)で高らかにクライマックスを迎えます。

第2楽章 アフェットウオーソ(愛情と、優しさをこめて)

第1楽章の煌びやかな雰囲気は消え、独奏楽器のみによって物悲しく少し影のある旋律が奏でられます。

第3楽章 アレグロ(速く)

フルートから受け継がれていく躍動感のある旋律は、まるでスキップをして飛び跳ねているかのような印象を受けます。

最後は全ての楽器が絡み合いながら華やかにフィナーレを迎えます。

♪ 曲目解説:フルート 二木陽子

<出演者>

ソロヴァイオリン	三原明人	ヴァイオリン	武藤敦子 牧田太郎
フルート	二木陽子	ヴィオラ	園田陽子 谷口善樹
チェンバロ	遠藤由紀子	チェロ	福原耕二
		コントラバス	池田和正



ブランデンブルク協奏曲 第5番の自筆譜(ベルリンのドイツ国立図書館蔵)

J.S. バッハ：ブランデンブルク協奏曲 第1番 BWV1046

第1番はブランデンブルク協奏曲全6曲の中で3番目に作曲されたと言われています。全曲で最大の編成で、たくさんの独奏楽器が登場します。特徴的なのは通常のヴァイオリンよりも高く調弦され高音を担当するヴィオリーノピッコロの活躍ですが、現在では廃れて使われておらず本日も普通のヴァイオリンで演奏します。

第1楽章(速度表記なし)

メインは弦楽器とオーボエ、これにホルンが楽しく会話を投げかけながら展開する田園を散策しているような明るく楽しい楽章です。

第2楽章(アダージョ)

もの悲しい雰囲気、さみしげなオーボエとヴァイオリンの歌が切ない楽章です。

第3楽章(アレグロ)

第2楽章のさみしさを吹き飛ばすような明るい曲。ここではオーボエと交代してホルンとヴァイオリンが全体を導きます。

第4楽章(メヌエット)

第1番以外の5曲はすべて3楽章編成ですが、この曲ではうれしいおまけがついています。貴族のダンス、メヌエットで始まり(序奏)→トリオ(管楽器)→序奏→ポロネーズ(弦楽器)→序奏→トリオ(管楽器)とすすみ、序奏のメロディで締めくくられます。

たくさんの独奏楽器が登場する音楽のフルーツバスケットをどうぞお楽しみください。

♪ 曲目解説:ヴァイオリン 溝田範子

<出演者>

ソロヴァイオリン	立田祥子	ヴァイオリン1	大橋一郎	山本 芳功	渡辺 惟
オーボエ	二村直子	ヴァイオリン2	大橋かおる	早川貴子	溝田範子
ファゴット	山内 静	ヴィオラ	内田綾美	本郷尚子	
ホルン	嶋村恒夫	チェロ	倉澤倫子	倉澤由和	
チェンバロ	遠藤由紀子	コントラバス	小林真弓		



ブランデンブルク協奏曲 第1番の自筆譜(ベルリンのドイツ国立図書館蔵)

J.S. バッハ：管弦楽組曲 第3番 BWV1068

管弦楽組曲の作曲については諸説あり、バッハの一番の後援者でもあり自ら演奏もする音楽愛好家であったケーテン侯レオポルトのために作曲されたと、長い間人々に語られてきましたが、現在ではライブツィヒ時代(1731年頃)にコレギウム・ムジクム(宮廷楽団)のために書き下ろされたとする有力な説も存在しています。

管弦楽組曲第3番は、バッハが作曲した4つの管弦楽組曲のうち第2番とならんで有名な作品です。当時、流行していたフランス生まれの組曲形式をとっており、長い序曲の後にアリア(エール)、ガボット、ブーレ、ジグの舞曲が続く構成となっています。

1. Ouverture(序曲)

フランス風序曲で荘重な堂々とした旋律を前後で挟み、中間部はきびきびと速い快活なテンポで、祝祭的で華やかな雰囲気になっています。

2. Air(アリア=イタリア語、エール=フランス語)

誰もが一度は耳にしたことがあり、全ての人の心を落ち着かせる旋律を持つ、「G線上のアリア」として知られている名曲です。G線上のアリアと呼ばれる理由は、19世紀(1845~1908年)のヴァイオリニスト アウグスト・ウィルヘルムが、ヴァイオリン独奏版に編曲した際にヴァイオリンのG線(4本ある弦のうち一番低い音の弦)だけを使い演奏した為で、現在はいろいろなアレンジで演奏され、単独でアンコール曲として取りあげられることも多く、今日のコロナ禍では人々の心が癒される名曲の一つとも言えます。

3. Gavotte(ガボット)

バッハの作曲したガボットの中で最も親しまれている曲の一つです。4分の4拍子または2分の2拍子で書かれ、小節の半ばから始まるミディアムテンポのフランス舞曲でトランペットの煌びやかな音を中心として、宮廷の式典を思わせる高貴な雰囲気を感じられます。

4. Bourrée(ブーレ)

速いテンポの2拍子の舞曲で明るくきびきびとした音が特徴的です。

5. Gigue(ジグ)

8分の6拍子のテンポの速い舞曲で、アイルランドで現在も演奏される舞曲ジグ(jig)に由来すると言われております。8分の6拍子のリズムが流れるように続き、最後は華やかにトランペットを交えて明るくフィナーレ(終曲)を飾ります。

最後に、バッハがケーテン宮廷楽長として活躍した、宮廷の高貴で荘重な雰囲気をひと時でも皆様感じて頂けたら幸いです。

♪ 曲目解説:ヴァイオリン 岩田徳子

<出演者>

ヴァイオリン1	立田祥子	大橋一郎	大橋かおる	皆合愛子	早川貴子	細貝 春	渡辺 惟
ヴァイオリン2	武藤敦子	石本恵理	岩田徳子	桑原啓輔	牧田太郎	溝田範子	山本芳功
ヴィオラ	内田綾美	園田陽子	谷口善樹	本郷尚子			
チェロ	福原耕二	倉澤倫子	倉澤由和				
コントラバス	小林真弓	池田和正					
オーボエ	二村直子	古澤恵子					
トランペット	八木巧次	新井本昌宏	田崎真二				
ティンパニー	時田 裕						
チェンバロ	遠藤由紀子						

<チェンバロ> 18世紀フランドル様式に基づく二段鍵盤チェンバロ

(1997年久保田チェンバロ工房設計製作)

調律/久保田チェンバロ工房

Instrument チェンバロについて

チェンバロは、18世紀にピアノが発明されるずっと前の14世紀にヨーロッパで誕生し、バッハやヴィヴァルディが活躍したバロック時代(17～18世紀)に盛んに使われた鍵盤楽器です。

18世紀末以降は衰退しましたが、近年では古楽演奏などでよく用いられています。

その外観はピアノにそっくりな鍵盤があったり、グランドピアノに似たフォルムをしていますが、音が鳴るしくみに違いがあります。ピアノはハンマーが弦を叩くことによって音を出しますが、チェンバロは打鍵するとツメが弦をはじいて音が出ます。そのためチェンバロは、力強く強弱も大きいピアノの音色とは異なり、より繊細で純粹な音色を持っているのが特徴です。

♪ 解説:チェンバロ 遠藤由紀子



18世紀フランドル様式に基づく
二段鍵盤チェンバロ
(1997年久保田チェンバロ工房設計製作)

Interview 三原先生へのインタビュー

Q 今回の聞きどころを教えてください。

ブランデンブルク協奏曲は、過去のフレンドシップコンサートで弦楽器のみの編成である3番と6番を演奏しましたが、今回は管楽器も入った曲を、ということで5番と1番をご提案いただきました。1番は金管楽器も入ったシンフォニックな編成になっています。5番は、チェンバロがソロとして大活躍しますね。団内に鍵盤楽器の奏者がいることを紹介できるいい機会になったと思います。また、ヴァイオリンに加えて、5番はフルート、1番はオーボエ、ファゴット、ホルンなど管楽器もソリストとして登場しますので、そこが聴きどころでしょうか。

管弦楽組曲は、トランペットやティンパニーなどが活躍する祝祭的な曲で、実は市川文化会館の改装後のオープニングでも演奏することになっており、さらに7月の定期演奏会のプログラムにも入っています。オーケストラは編成が大きいいためバッハを演奏するチャンスがなかなかないので、今回は本当に貴重な機会です。

Q バッハに思い入れなどおありでしょうか？

自分自身弦楽器奏者でもあるので、もちろん鍵盤楽器奏者にとってもそうなのですが、バッハは基本中の基本だと思います。とても大事な作曲家です。ベートーヴェンの交響曲が新約聖書だとするとバッハの音楽は旧約聖書である、とよく言われますね。後の時代のあらゆる作曲家の曲を演奏するためにもバッハを弾くことはとても大事だと考えています。

Q 今後のフレンドシップコンサートで取り上げたい曲は？

弦楽アンサンブルの曲にもまだまだたくさん名曲があります。また、オーケストラとしてはなかなか演奏する機会はありませんが、小編成のアンサンブル的なオーケストラ作品は、近代の曲を含め、たくさん名曲があるんですよ。このフレンドシップコンサートは、そのような曲も取り上げることができるとてもいい機会だと思います。

- ・新型コロナウイルス感染防止対策としてマスクの着用、間隔をあけた着席にご協力いただき、会話はできるだけお控えください。
- ・携帯電話は電源を切るかマナーモードに設定してください。
- ・演奏中にお子様の落ち着きがなくなった場合は一度ロビーに出られて様子を見て再入場されるようお願いいたします。
- ・客席、ロビー以外は立ち入りできません。また、ロビー以外でのご飲食はお控えください。

今後の演奏会のご案内

第422回市響「交響楽の午後」

2022年7月10日(日)14:00開演 市川市文化会館
入場無料・整理券発行

J.S. バッハ／管弦楽組曲 第3番 BWV1068
ブラームス／ネーニエ 作品82
マーラー／「大地の歌」
指揮：三原 明人

<第8回フレンドシップコンサート実行委員>

内田綾美 倉澤倫子 立田祥子 谷口善樹 二村直子 細貝春(プログラム)